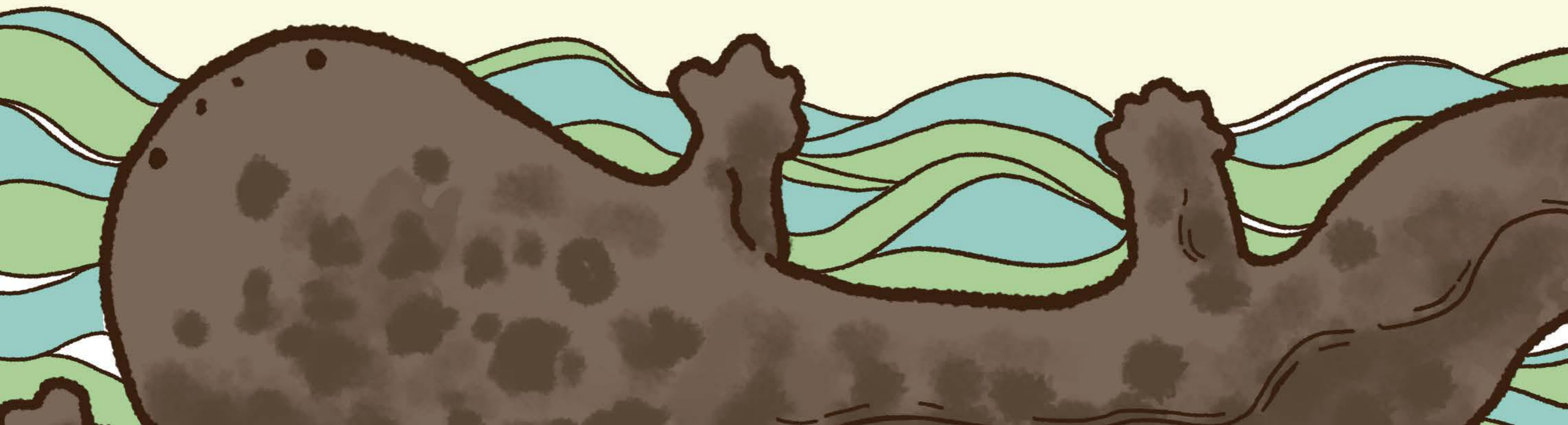




じやがほらだいじやでんせつ

# 蛇ヶ洞大蛇伝説





①

これからお話しするのは、くに国の特別天然記

おちついて

ねんきり念物「オオサンショウウオ」の生息地として

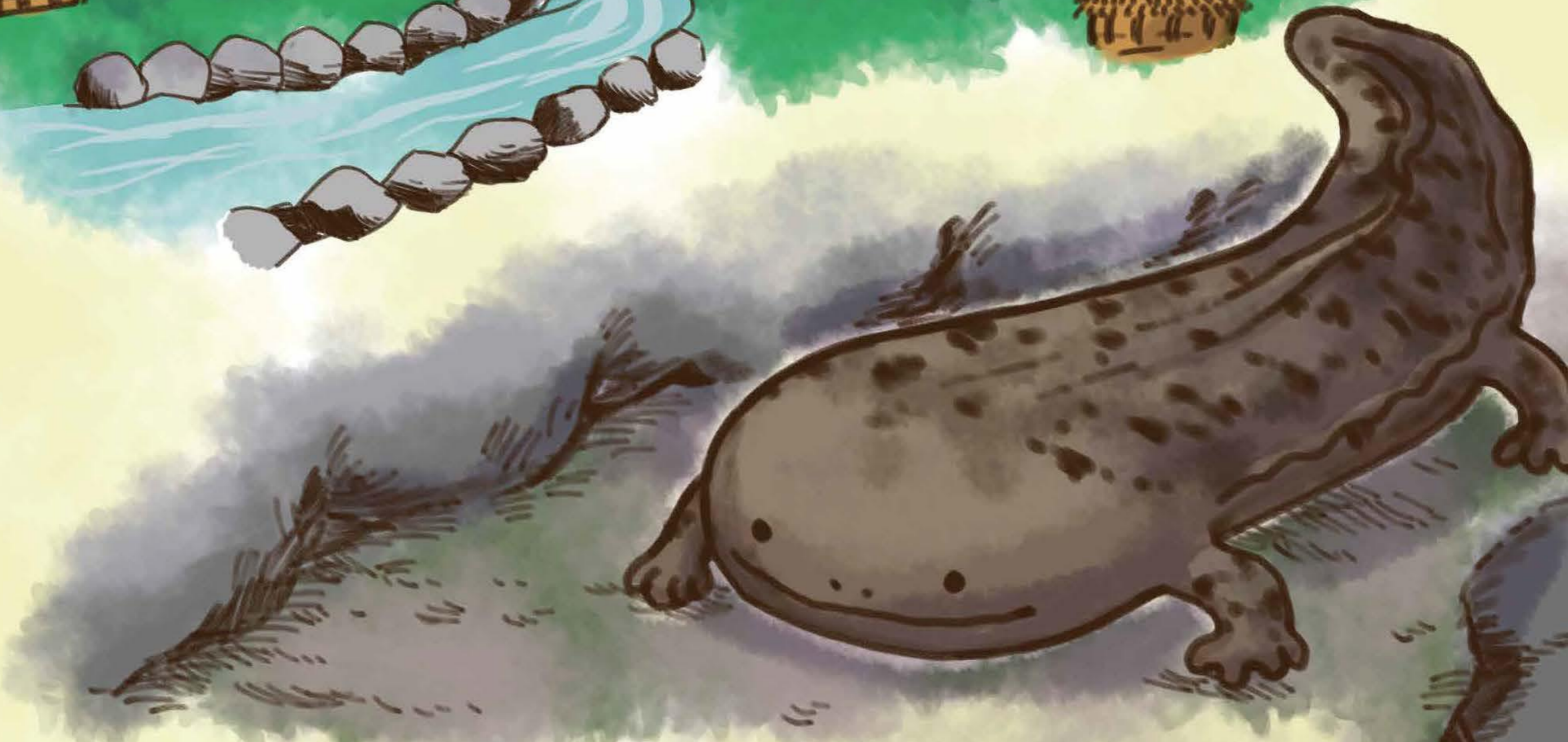
しも知られる谷川にまつわる昔話です。

この谷川ではその昔、南から流れる川と東

から流れる川がひとつになり岩にくだける水

おと音が「うーうー」と鳴りひびいておりました。

ぬく





②

むかしむかし、鳥原トリハラという村むらに平景伴たいらのかげともとい

おちついで

うおさむらいが住すんでおりました。

景伴かげともさんは大だいの釣り好きすで、毎日まいにちのように

釣つりをしては、釣つってきた魚さかなを近所きんじょの村人むらびとに

配くばって歩あるく気前きまえのよい男おとこだったそうです。

ぬく





③

ある日のこと、

「今日もたくさん釣ってやるぞ」

意気揚々と三国川にやってきました景伴さん。

岩かげの深みにたらりと釣り糸を垂らして

みると釣れること、釣れること。あつとつ

間にびくは魚でいっぱいになりました。

「これはなんとついでじゃー」

しかも釣れたのはこれまで見たこともない

ような大きくて美しい魚ばかり。景伴さんは、

大喜びで村へ帰りました。

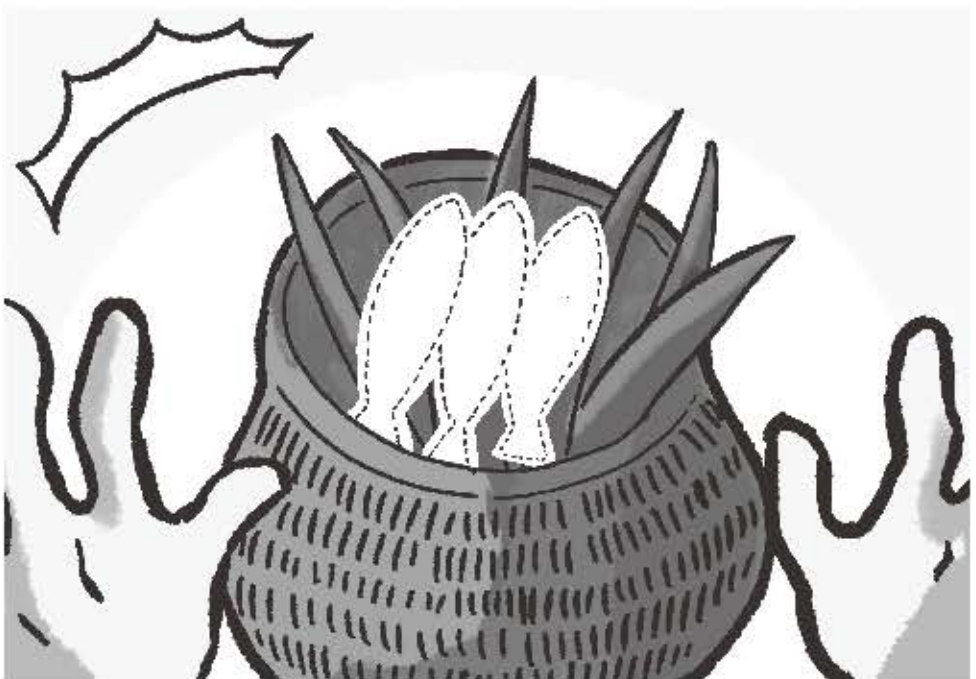
「ややっー」これはなんとしたついでじゃー」

おまじつ

おまじつ

おまじつ





④

村に戻ってびくの中をのぞいた景伴さんが大  
きな声をあげます。

なんと、あんなにたくさん釣ったはずの魚  
がびくの中から消えてしまっていたのです。

代わりに入っていたのは数枚の笹の葉だけ。

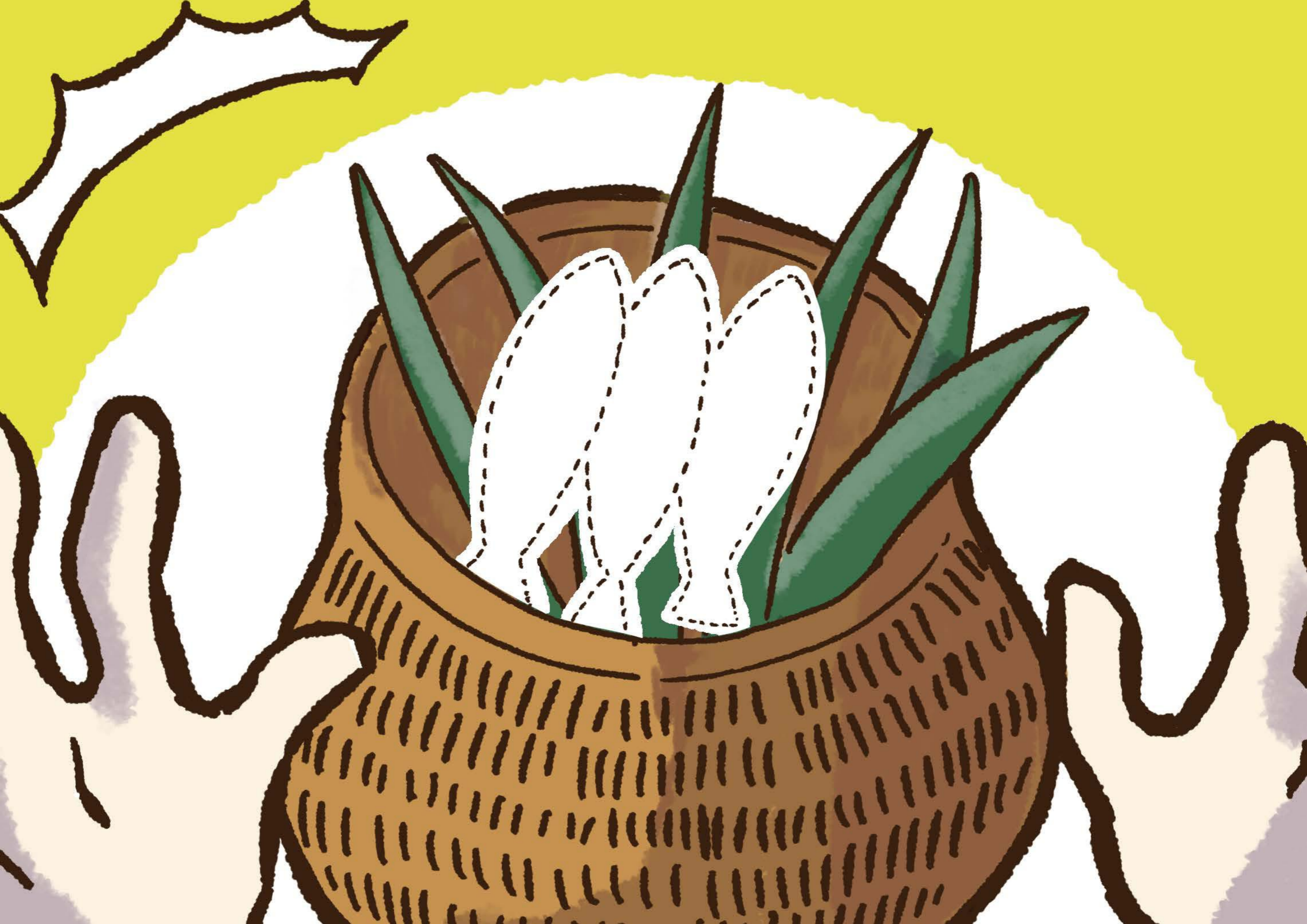
「うーむ、何かに化かされたかっ?！」

口惜いや

少し間をおいて

ぬく







⑤

次の日、同じところに釣り糸をたらすとま

おちついて

たしてもあれよあれよという間にびくは魚で

いっぱいになりました。

「よし、今日は化かされたりせぬぞ」

景伴さんは、魚がびくに入っていることを確

認すると用心深くふたをして立ち上がりました。

帰り道でも何度も何度もびくの中を確認し

ます。

「よし、魚だ」「今日は大丈夫」

「わしは何度も化かされたりせぬわ!」





⑥

ところが、村に帰ってびくを開けると  
中身はまたも笹の葉に変わってしまっており  
ました。

「やっ！またやりおった！にくいやつめ。」

その夜、悔しくて眠れなかった景伴さんは、  
次の日もより早く釣りに出かけていきま  
した。





⑦

いつもの場所ばしょで釣り糸ついとを垂たらしていると、

川上かわかみの方ほうからすうーっと生臭なまぐさい風かぜが吹ふいてき

ました。

景伴かげともさんが風かぜの吹ふいてきた方ほうに目めをやると、

そこには一羽いちわのハトがバタバタたと音ねをたてな

がら岩いわの上うえに止とまりました。

「もしま、あいつがわしを化ばかしたやつか？」

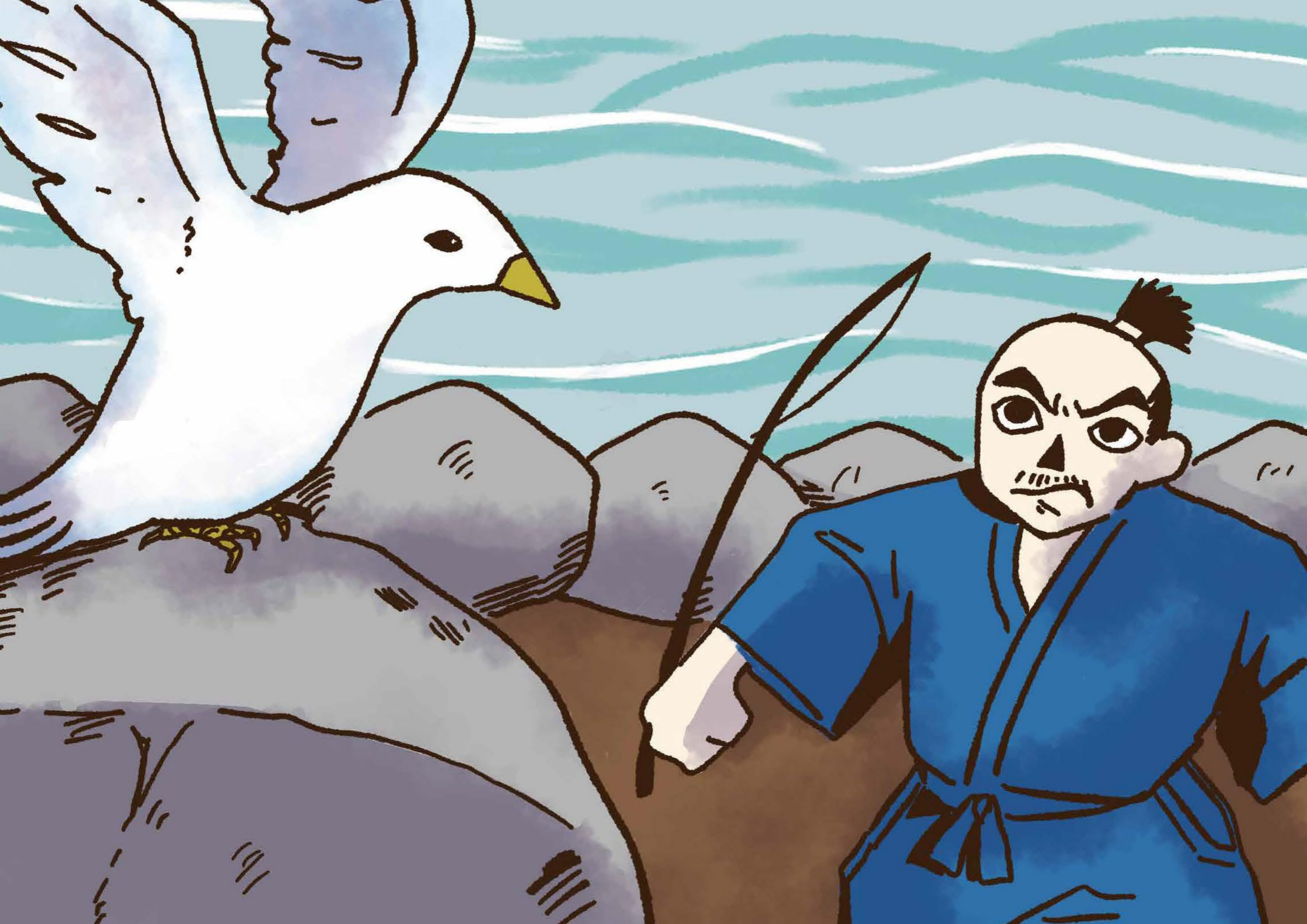
そう思おもい、

グツと睨にらみつけると

低い声で

力強く、ゆっくりと

へびへびへ





⑧

ハトはみるみる姿すがたを変え、か大きな口くちを開けあ

たまま体からだを岩いわに巻きつけてまこちらを睨にらみつけ

る大蛇たいじやになったのです。

低く大きな声で

ぬく







⑨

「おのれ、おまえの仕業じゃな！思い知れ！」

勢いよく

景伴さんは用意してきた弓に矢をつがえ力

いっぱい引きしぼり、大蛇めがけて放ちました。

ヒューン、ヒューン

矢は音を立てながら大きく開いた大蛇の口

深くに突き刺さりました。

すばやくぬく





10

と、一天いちてんにわかにかき曇りくも、たたきつける

勢いきほいよく

ような土砂降どじやばりの雨が降り出だしました。

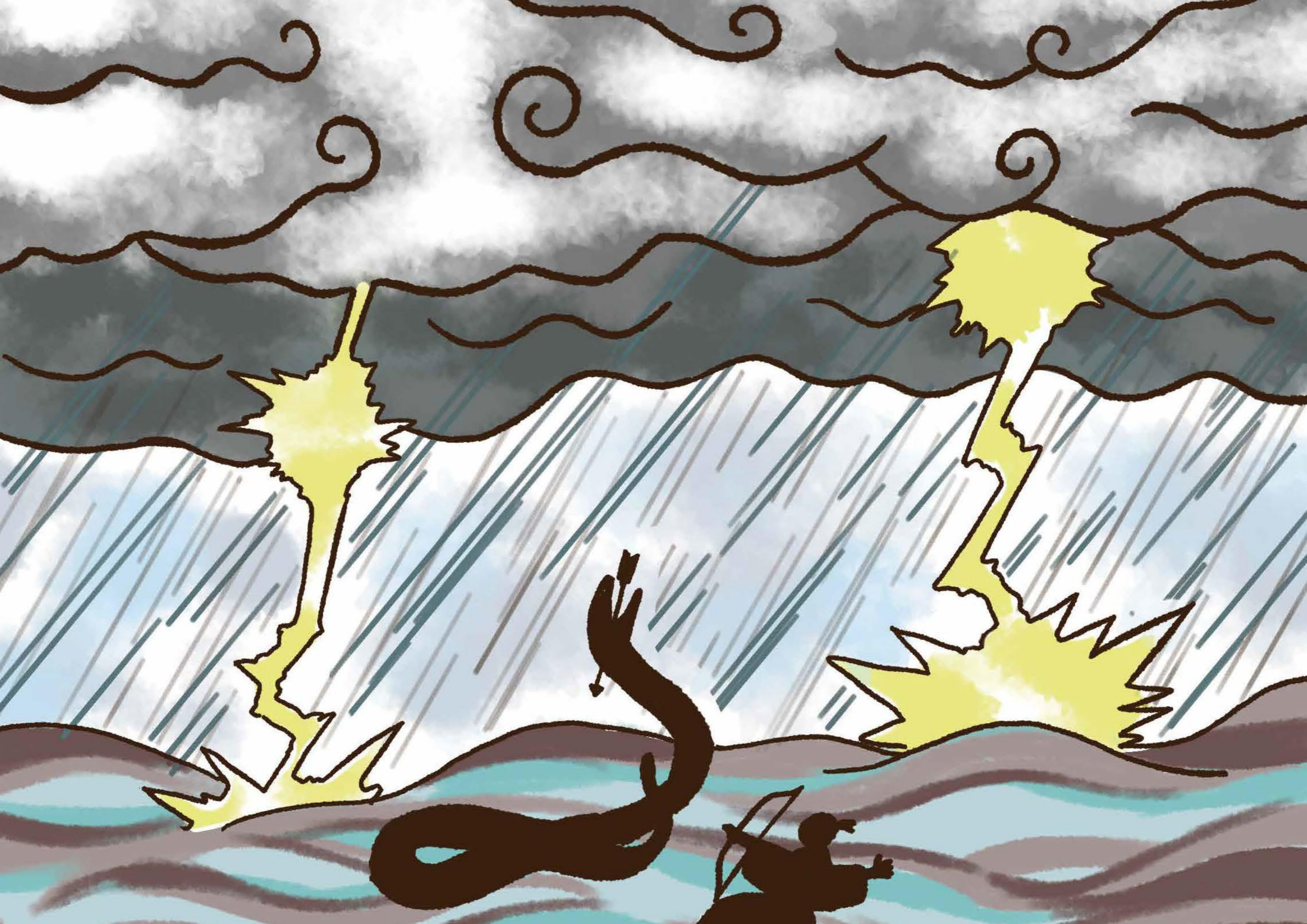
バリバリバリ、ゴロゴロゴロ、ドカーン

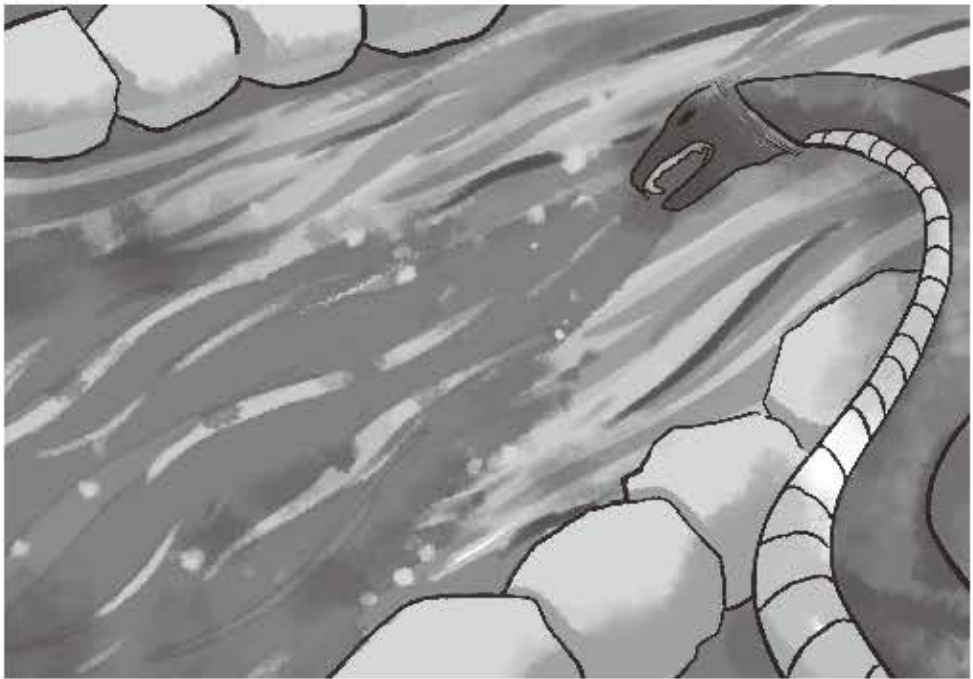
と雷鳴かみなりもとどろきます。

結局雨は一時間余りも降り続つづけました。

おちついて

ぬく





11

大蛇はというと、急所を射抜かれて力なく

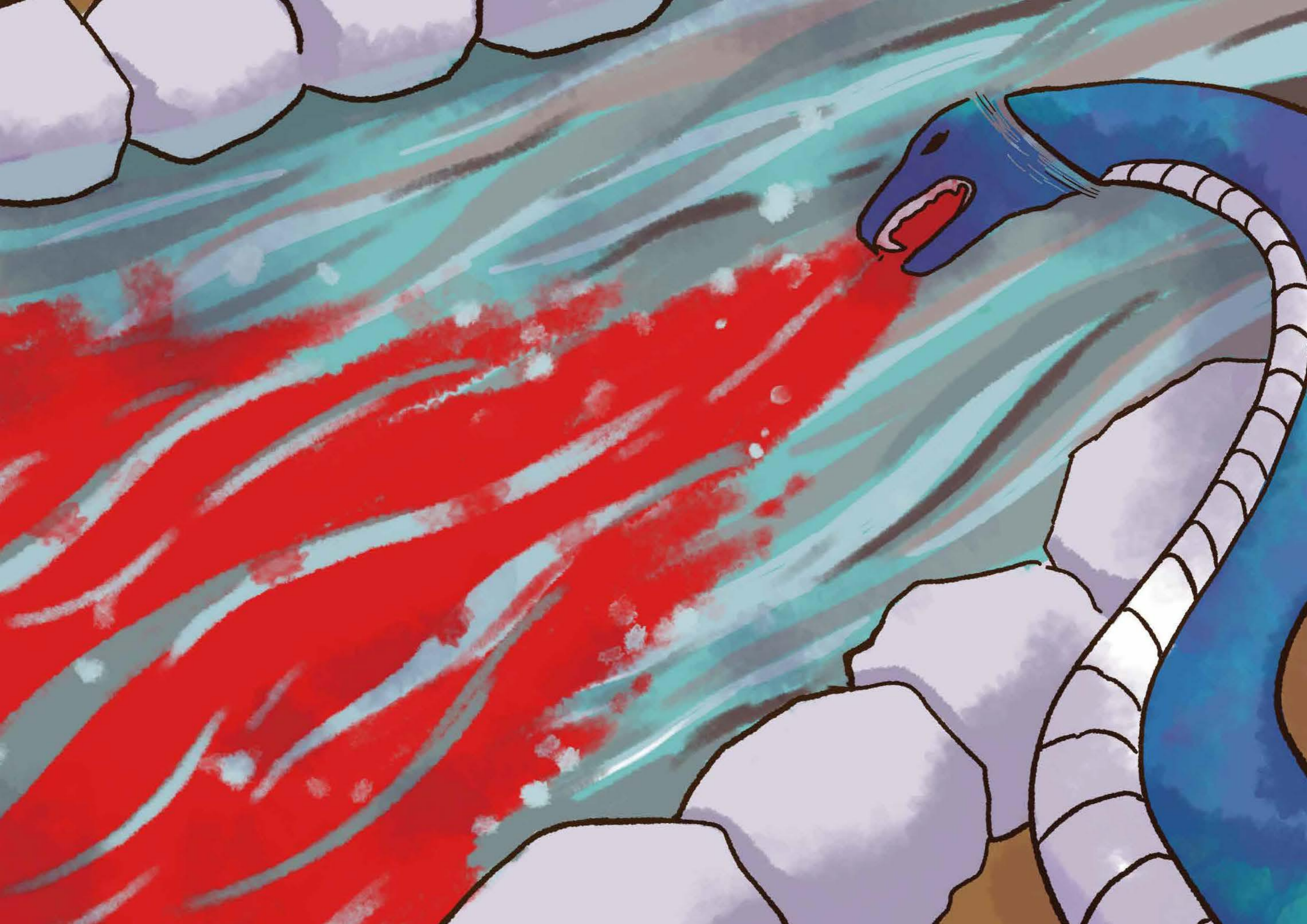
おちついて

首を濁流の中に突っ込み動こうともしません。

川は大蛇の血で真っ赤に染まり、七日七夜の

間、緋桃の花を流したようだったと言います。

ぬく





12

「景伴かげはんさんは本当ほんとうにお強い人ひとじゃ」

「恐ろしい大蛇だいじやじゃったのう」

と村人むらぢんたちはうわさし合あいました。

そして、この深みふかの主ぬしである大蛇だいじやがたたり

を起おこさぬよう、ささやかな祠ほくらを建ててお祀りまつ

しました。そうして、この深みふかのことを誰だれい言う

ことなく「蛇ヶ洞じやがほら」と呼ぶよようになりました。

三国川みくにがわの名なは、七日七夜流なのかななやれた血潮ちしおの花はな

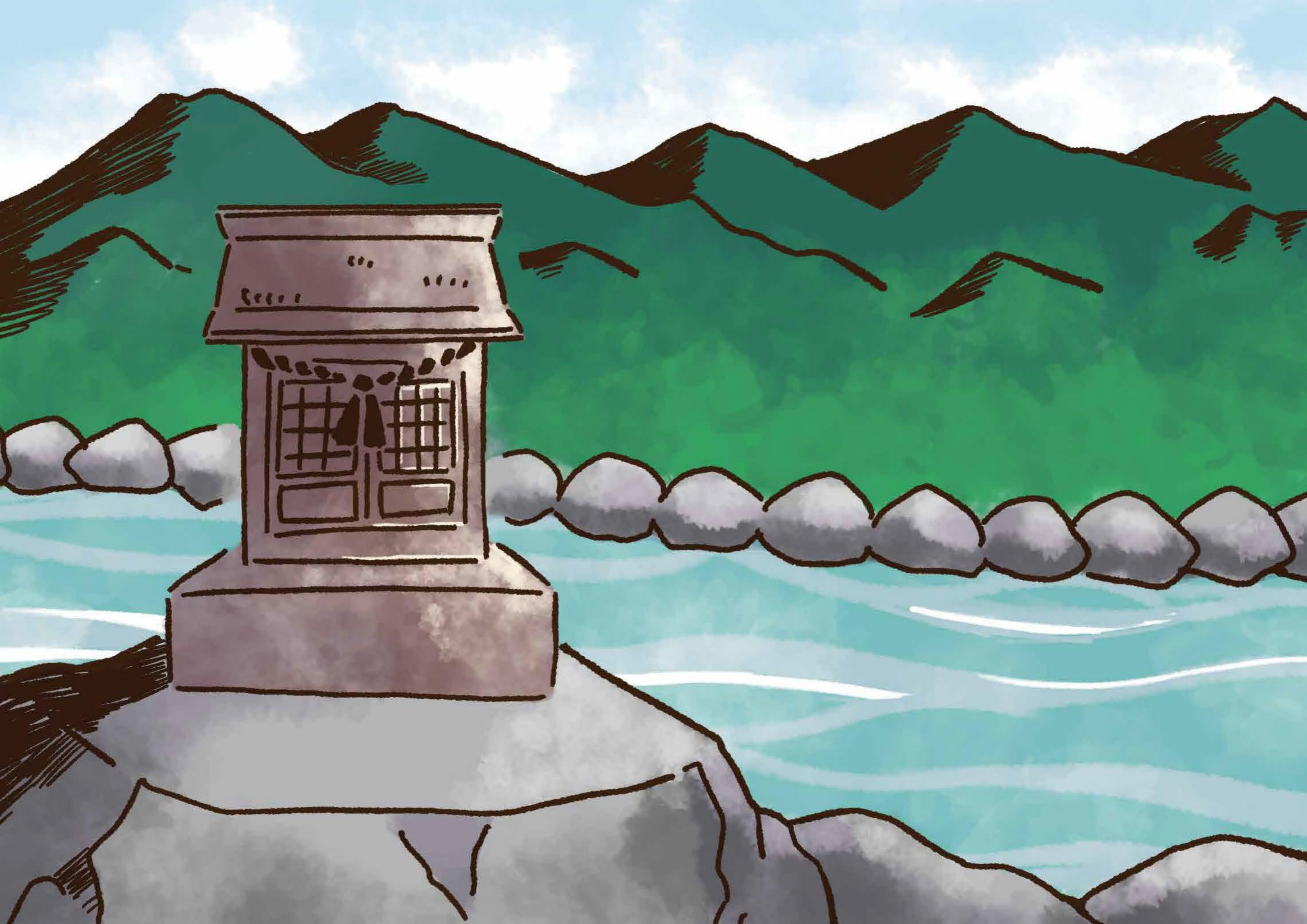
くれないにちなんで「花川はながわ」と呼ばよばれるよう

になり、いつしか「はだがわ」と呼よばれる

ようになったそうです。

おちついて







13

時代は変わり現在の蛇ヶ洞川では、不法投

棄が問題となっています。不法投棄は水を汚

し生態系を破壊し、生き物の住処を奪ってい

きます。

愛知県で唯一のオオサンショウウオの自然

繁殖地である蛇ヶ洞川が汚染されれば、オ

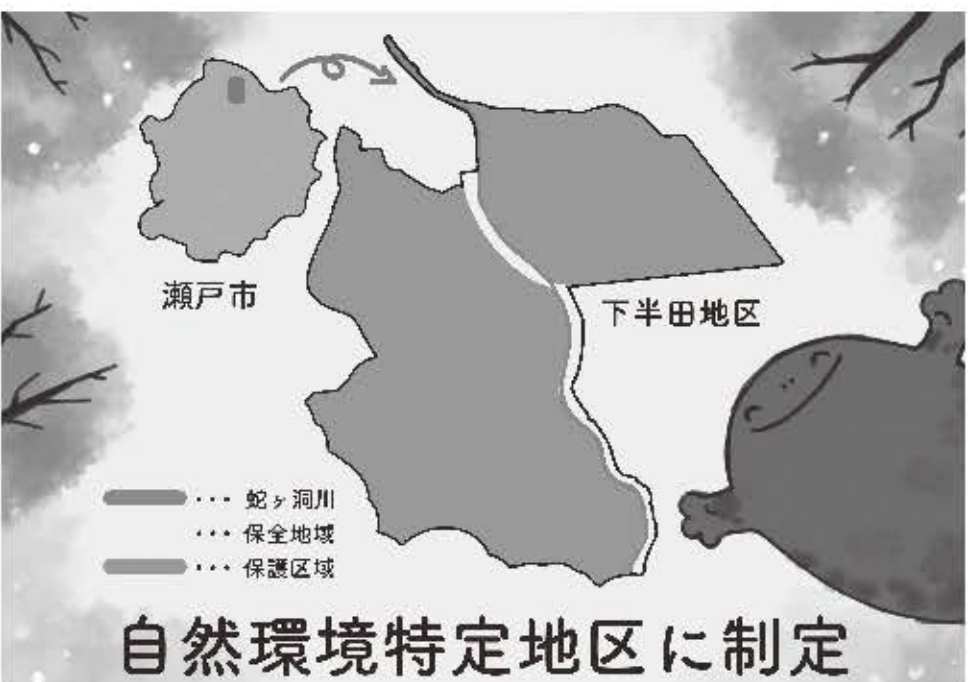
オサンショウウオはここで生きていくことが

できなくなるかもしれません。

少し強い感じで

ぬく





14

もともと下半田川町蛇ヶ洞地区は、都市と

おちついで

自然の中間に位置する里山として、多種多様

な動植物の生息・生育地となってきました。

希少な動植物も生息する下半田川町蛇ヶ洞

地区を守るため、瀬戸市は、令和元年10/1、

この地区を瀬戸市初の「環境保護・保全の

特定地区」に指定しました。

ぬく



# 自然環境特定地区に制定



15

これにより、ちいさ地域の方々をかたがたはじめ、しぜん自然

ほし保護・ほぜん保全活動に取りくむしみん市民やじぎょうしや事業者、だいがく大学

などのけんきゅうきかん研究機関とぎょうせい行政がれんけい連携し、せいそう清掃活動や

やかん夜間観察会などかんきょう環境のほご保護・ほぜん保全活動が行わ

れています。

みな皆さんも、みぢか身近なことから、せとし瀬戸市のゆた豊か

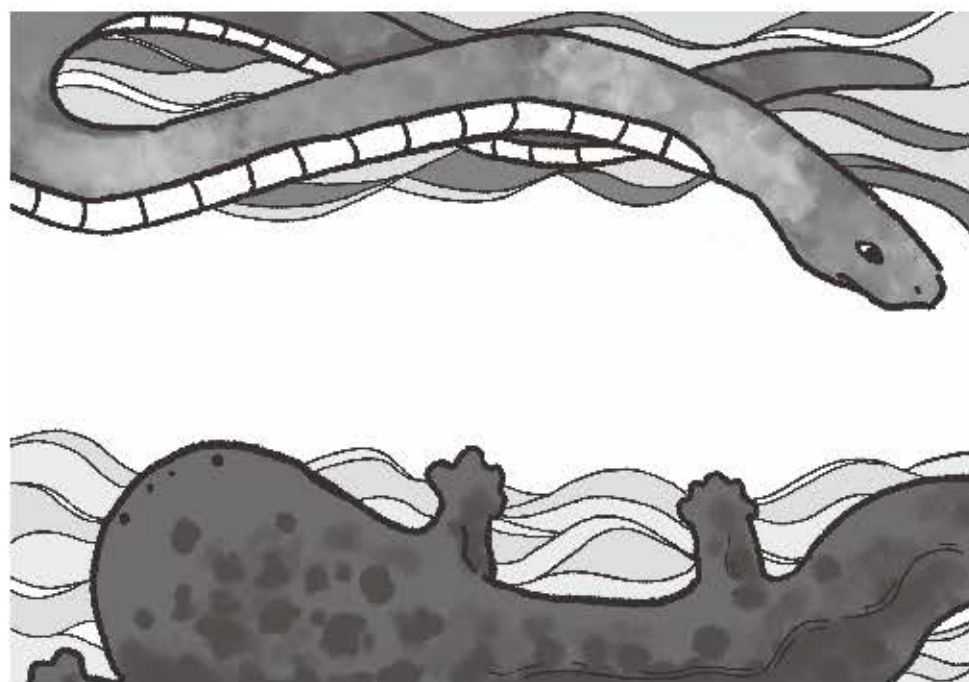
なしぜん自然やまじょう希少などうじゆく動植物を守るかつどう活動を始めてみ

ませんか？

おちついて

おわり





じやがほらだいじやでんせつ  
蛇ヶ洞大蛇伝説

# 表紙

※この紙芝居は、地元で伝わる伝説をもとに  
特定地区である下半田川町蛇ヶ洞地区のPR、  
保全・保護活動の啓発のために制作しました。

ぬく

おちついて